

「友人の家へ」

北極圏で私が滞在している場所は、スウェーデン・ノルボッテン州・ヨックモック郡・ポルユス村というところ。ここはもともと鉄道の駅で、今でも夏の間だけ、列車が来ます。友人がその駅舎を買い取って自宅にし、その脇に4棟続きのコテージを建設したのです。



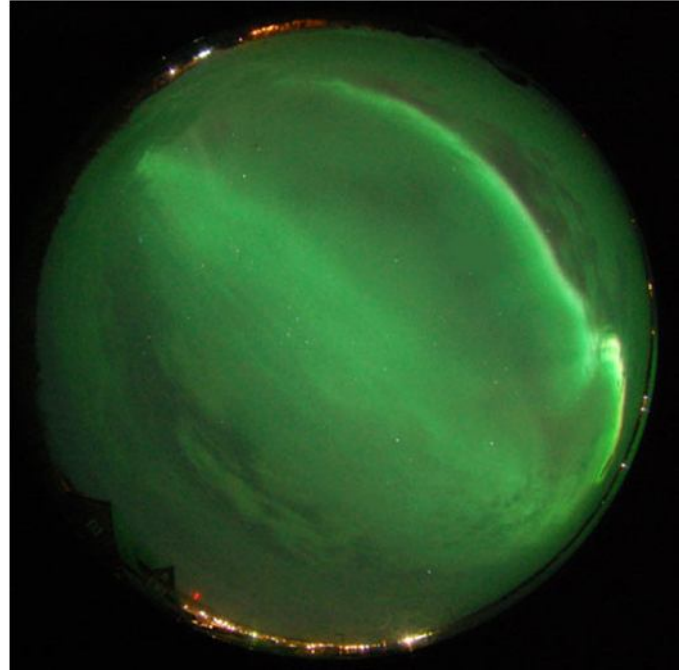
「夏のポルユス駅」 白夜の北極圏を、大勢の乗客を乗せた列車が走っています。

今回の滞在で、最も重要な仕事は、オーロラ生中継カメラのシステムを新しいものに設置・設定することです。これが、ものすごく大変でした。



「全天オーロラ観測カメラ」

特に重要なのが、魚眼レンズを装着した、一眼レフカメラによる「全天オーロラ観測カメラ」です。このカメラは、ポルユス駅に留置されている、古い鉄道貨車の天井に穴をあけて、設置しています。前回設置したのは、カメラも設置方法もあまり良くなかったので、今回は頑丈な三脚に新しいカメラを設置しました。



「全天オーロラ観測カメラの画像」 観賞用ではなく、研究用としても十分に価値がある画像。

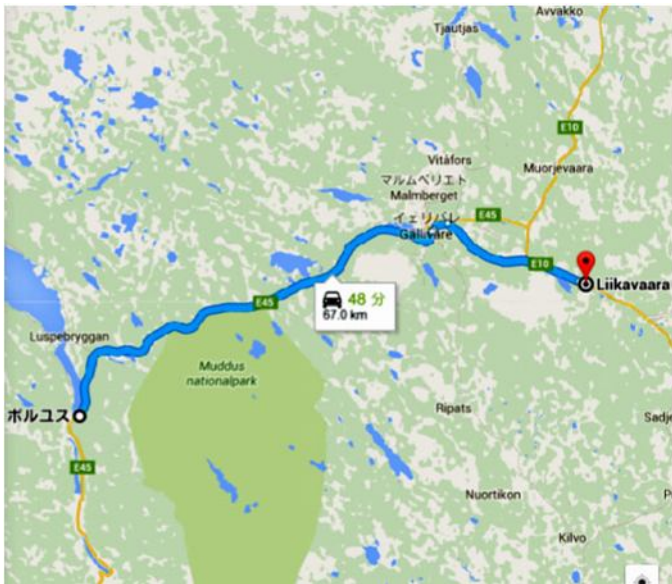
今回、カメラの機種が変更になったので、古いニコンの魚眼レンズを使用しなくなりました。それを、持参のカメラに装着したら、あれ、面白い！



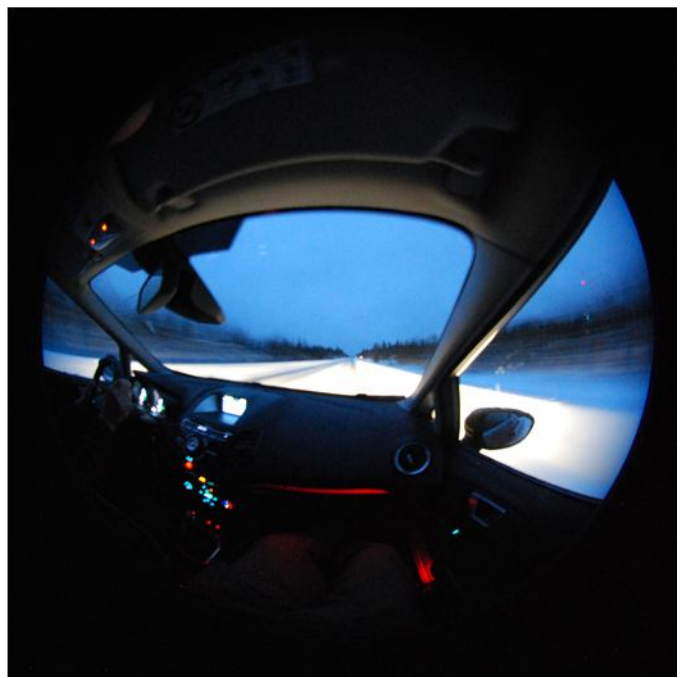


普通の風景がものすごく広く写ります。特に天頂にカメラを向けて撮ると、地面に寝て見たような風景に写ります。

さて私は、北極圏には何人かの友人がいます。ポルユス、イエリバーレ、キルナ、アビスコ、それにリッカバーラなどです。今日は、リッカバーラの友人に招かれて、夕食に行ってきました。



滞在しているポルユスから、リッカバーラまでは、67km、1時間です。途中、鉱山の街「イエリバーレ」を通過します。この日は気温が高く、一旦融けた雪が再び凍り、路面のコンディションは最悪でした。走っているのはほとんど地元北極圏の人たちの車で、雪道の運転には慣れているはずですが、しかし実際に、往復で2回、スピンして路肩に落ちこちた車を見ました。



「北極圏の国道45号線」 助手席より撮影



友人の家では、日本料理と、スウェーデン料理の両方が出ました。メインは「ヘラジカ肉の春巻き」という珍しい料理。しかし、これが実においしくて、何個も食べてしまいました。気づくと、頭にヘラジカの角が生えていました。



デザートは地元産のブルーベリーのパイ。これがまたすばらしい。いや、実に楽しい夕食でした。